

eitoeiko より展覧会のお知らせです

岡本光博

ラブ&ピース

2023年12/2(土)~12/30(土)

関連イベント 12/2(土)17時~18時

岡本光博×本展キュレーター 工藤健志 ギャラリートーク(入場無料)

ラブ&ピースは魔法の言葉。ちよいとまぶせば、たいていのことは正、善として押し通せちゃう。もともと「愛」も「平和」もひどく曖昧な概念だから、使う側と受け取る側の認識が大きくズレることもしばしば。こうした凡庸な言葉を狡猾な人間は戦略的に利用するし、純粹無垢(より正確に言えば無知蒙昧)な受け手は、素直に理想郷を想起したりする。多くの人々が「愛」を盾にして他者を傷つけ、「平和」の名のもとに殺しあいを行っているのにねえ。こういう言葉のある個人が使う場合はたいてい「いい人」アピールだし、様々な組織が使う場合は特定の層やコミュニティをある方向へと誘導し、消費意欲の喚起や思想統制の強化に用いることが多い(と僕は感じる)。わかりやすい言霊の活用は人々を誘惑するためのもっとも有効な手段なのだ。

こうしたタイトルのもとに開催される今回の岡本展にも、平和や自由のシンボルである鳩を中心とした鳥モチーフの新作が多数展示される。岡本は特定の寓意や理念をもつ数種の鳥と、言霊的作用を喚起する美術作品や企業ロゴ、あるいは政治的形象を(過激に)接続することで、多くの人々が共有する価値や意味を攪乱させ、その問い直しをはかっていく。解説を読まなければ理解できないコンセプト至上主義の(特に左巻き)アートか、ストレートに感情を刺激するウエットな表現ばかりがもてはやされる時代にあって、パロディやユーモアという知的な手法をとおして、現代社会が抱える問題を鋭く告発していく岡本の作品はアートシーンの中でもひととき異彩を放っている。しかし、諧謔を弄ぶかのようなそれら表現の奥底には強烈な風刺性と強靱な批評性が備わっているのだ。世界各地で戦争が激化している今だからこそ、単純な表象に惑わされないよう、本展をとおして情報や知識を智慧へと昇華させていく思考法を身につけてほしい(と切に願う)。

工藤健志(青森県立美術館企画課長)

岡本光博(おかもと・みつひろ)

1968年京都生まれ。94年滋賀大学大学院修了。94~96年アート・スチューデント・リーグ・オブ・ニューヨークに在籍。97~99年CCA北九州に在籍。01~04年ドイツのレジデンスを中心にインド、スペインなどに滞在。04~06年台湾・沖縄を拠点に活動。07年から京都を拠点に活動し12年よりKUNST ARZT主宰。弊廊での主な展示に桜を見る会(2019~2022)、ニャンともならニヤイ(2022)、オキナワ・ステーキ(個展2021)、天覧美術(2020)、UFO(個展2018)、THEドザえもん展 TOKYO2017(個展2017)、69(個展2016)、マックロポップ(個展2014)。ほか国内外の展覧会に多数出展。

eitoeiko

東京都新宿区矢来町 32-2

03-6873-3830

開廊 火曜~土曜 12時~19時 日月休廊

ウェブサイト www.eitoeiko.com

お問い合わせ ei@eitoeiko.com

出展作品紹介



左 LOVE & PEACE 剥製「白鳩」、足枷、樹脂（ロバート・インディアナの「LOVE」）、チェーン 2023
右 Heaven's Justice パネルに鳥の糞、複写紙(ピカソ「鳩」1949)、アクリル板 2023



左 PEACE & PEACE 剥製、ピースたばこ、LED、樹脂、木材 2023
右 大ガラス 著作権の机 4 RM LED、剥製、ミラー、特殊シート、ミニチュア「便器」 2022